

## 令和4年度 自己評価

### I 「保育の計画性」についての検証及び改善策

保育の指導計画はマンネリ化しないように学年リーダーを中心に常に見合直しを行い、子どもの実態や周囲の状況の変化に対応し作成する事が出来ていた。異年齢の子どもが自然に交流できるような環境構成や季節の変化に応じた保育の指導計画を立て、実行する事が出来ていた。

### II 「保育への在り方、幼児への対応」についての検証及び改善策

健康と安全への配慮は各教職員の評価が高く、引き続き新型コロナウイルスへの感染防止対策として子どもの体調管理、検温、消毒等衛生面対策が徹底して行われていた。登園時以外にも保育中の視診を欠かさず、子どもの些細な変化にも気づける様に職員間で心掛けていた。また、禁止や命令、行動を急がせたり、自信を失わせる言葉や態度などの不適切な保育が行われていないか見直す機会を設け、適切な保育を行う事が出来ていた。

### III 「保育者としての資質や能力・良識・適正」についての検証及び改善策

子どもの事やクラスの出来事などはパートナーとの情報共有、リーダー・上司への報告、その後のミーティングでの情報周知が行われ、保護者に対しても子どもの事や保育の様子を伝える等情報発信が出来ていた。幼児が関わるニュースや社会問題が多かった為、職員各自が情報をとらえ自分自身の保育を振り返るよう心掛けていた。

### IV 「保護者への対応」についての検証及び改善策

今年度は新型コロナウイルス対策として保護者の参加人数を制限しながらも例年通りの行事を行う事が出来、保護者にも子どもの成長を直に見て感じて頂く事が出来た。近隣市町村での子どもに対する不適切保育のニュースを受け、保護者も不安に感じる方が多いと感じ、よりいっそう安心して預けて頂けるよう、職員間での話し合いや研修の機会を設け保護者への対応も見直す事が出来た。

### V 「地域の自然や社会との関わり」についての検証結果及び改善策

今年度は園庭開放やイベント日も予定通り実施する事が出来、地域開放や子育て支援にも力を入れる事が出来た。毎月の入園説明会以外に未就園児のお誕生日会を行い、未就園児親子が来園しやすい案内やイベントを実施する事が出来た。

### VI 「研修と研究」についての検証結果及び改善策

今年度も新型コロナウイルスの影響でリモートでの研修が多かったが昨年よりも研修の回数は増え、各自が問題意識を持って参加する事が出来ていた。特に不適切保育に関する研修では職員間で話し合う時間を設け、園内での状況や対応を見直す機会となった。今までの保育を見直し、より良い保育を目指して話し合う事が出来、とても貴重な機会となった。